

三豊市と自然電力

コミュニティバス EV化で基本合意

【高松】香川県三豊市(山下昭史市長)とバイオマスエネルギーなどを手掛ける自然



電力(本社＝福岡市中央区)は、電気自動車(EV)バスを用いた「三豊市コミュニティバスの電動化による脱炭素化事業に関する基本合意書」を締結し、地域交通の脱炭素化に向けて共同で実証実験の推進に合意した＝写真。

三豊市と自然電力は「脱炭素社会の実現」に関する連携協定を締結し、この取り組みの一環として、三豊市コミュニティバス路線でEVバスによる実証実験を行う。一方、自然電力では同実証実験から得られる知見を元に、将来的な公共交通バス路線の電動化に向けた「サブスクリプションパッケージサービス事業」のビジネスモデル確立を目指す。

具体的には来年1月以降、まず市内1路線にEVバス車両を導入し、これまでのサービスレベルを維持できることを確認しながら、実路線での走行結果データの収集を開始する。その後、同走行データや運用実績を基に、他路線への拡大をはじめ、再エネルギー・蓄電池導入の検討など、同市におけるグリーントランスフォーメーションの可能性を検討する計画だ。